

〔No. 353号〕

12月

令和2年
〔2020年〕

ふたかわ

呉市築地町3番1号

三まちづくりセンター

TEL 21-3961

FAX 25-8821

秋たけなわの候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃は大変お世話になりありがとうございます。
スポーツの秋、芸術の秋、講座やサークルで心ゆくまで活動していただき、実り多い日々を過ごしていただきたいと思います。
新型コロナウイルス感染防止につきましては、引き続き気を緩めることなく注意して活動していただきますようお願いいたします。



呉工業高等専門学校教授による公開講座

10月3日（土）13時から、呉工業高等専門学校 外村 彰教授（博士）による公開講座を行いました。講義内容は、【ひたむきな人々（4）～井伏鱒二「草野球の球審」】で、18名の皆様が受講され、大好評でした。

3密を避け、ホールで実施しましたが、ゆとりをもって座席を配置したので、安心して受講していただくことができました。外村先生が、時にはユーモアを交えてお話をしてくださったり、授業形式で説明してくださったりして、楽しく受講することができました。

参加してくださいました皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。



「花壇をリニューアル」

正面玄関左右の花壇をリニューアルしました。「明るく楽しいまちづくりセンターづくりの一環」として、花壇のリニューアルをしました。施工前は「石庭（枯山水）」でしたが、子供の遊び場で危なかったり、殺風景で寂しい感じであったりしました。そこで、私（館長）がリニューアルしてみました。何分にも造園は素人ですし、草花を買う資金もありません。より見栄えのする花壇にするためのアドバイスをしてくださいますようお願いいたします。



「料理手伝う夫に変身」 島根県邑智郡在住 74歳主婦

夫が「男の簡単料理教室」に通い始めて17年になる。知人に誘われて体験したのがきっかけだった。教室は月1回、近くの公民館である。栄養士、食生活改善推進協議会の方々の指導を受け、簡単で体に良いおいしい料理を作る。家では料理を全くしない、できない夫だったが、徐々に興味をもつようになった。私とスーパーに行って食材を選び、どこに何があるのかもわかるようになった。数年前から食事の支度をする時は、私の助手として手伝ってもらうことにした。一番助かるのは盛り付けだ。器にこんもりときれいに盛りつけられるようになった。娘、息子の家族が帰省した折、手伝う姿を見た娘から「お父さん変身したね。」と褒められた。これも料理教室で指導して頂いたおかげと感謝している。なぜか習った料理は一度も作らない。「いつかは作る」と言う。待つことにしましょう。



令和2年9月11日 中国新聞 「広場」より

「花育てて地域に貢献」 広島市南区在住 男性83歳

公園や公民館などの公共の場所の花壇に花を植える広島市安佐南区の「花いっぱい運動」に参加して10年余りになる。花壇の花を多くの人に見ていただき、心を癒やされることを切に願っている。毎年春秋の2回、種から苗を育て、公園の花壇に植えて、草取り、水やり、花殻取りなどをやる。手間暇かかって苦労するが、発芽時やつぼみの発見、開花が始まった時など、いつも感動する。花が咲き誇ったときは、それまでの苦労を忘れて達成感を感じる。70歳になった時仕事を常勤で続けることはやめ、できるだけボランティアをしようと思った。活動を通じて園芸の知識、技術を体得できた。また、多くの人と交友の輪を広げることもできた。花には、人の心を動かす力があると思う。今では、園芸が私の生きがいの一つだ。これからもこの運動に関わり、楽しみながらまちづくりにも貢献できればと思う。

令和2年10月7日 中国新聞 「広場」より



【 有名人の名言より 】

「最大の貧しさは他者への無関心である」

マザー・テレサ

「無関心」とは、気にもとめないという意味です。マザー・テレサは、「愛の反対は憎しみではなく、無関心です。」「何もしなくていい。そこに苦しんでいる人がいることを知るだけでいいのです。」とも言っておられます。

インド・カルカッタの修道女であったマザー・テレサは、「最も貧しい人の間で働くように」と神様からお告げがあったと言われ、スラム街へ赴き、学校へ行けない子供たちのために無料授業を始めました。また、その後も家のない人、体の不自由な人、病気の人、誰からもお世話をしてもらえない人たちのために無償で活動されました。

また、マザー・テレサは、「平和は微笑みから始まります。」「いかにいい仕事をしたかよりもどれだけ心を込めたかが大切です。」「私は一人の人を助け、できればもう一人の人を助けたいと思っているだけです。」とも言われています。

改めて、これらの言葉を読み返してみて、自分がいかに自己中心的で、独りよがりな人間だったかと反省するばかりです。これからは、周りの皆さんに、より関心をもち、「思いやりの心」をもって接することのできる人間にならねばと思います。